日本での留学生活について

マルテ ウィンストン エステバン(農業経営学研究室)

私は2001年11月に、このすばらしい国、日本に初めて来ました。その時は2週間滞在し「農業と農村発展の研修」に参加しました。その期間で東京、神奈川や静岡、京都、奈良などに行くことが出来ました。その研修で、私は日本農業の特徴を見ることが出来ました。例えば、農業技術の発展や農業組合の構造、農家一戸当たりの農地面積が平均約2ヘクタールであることなどがわかりました。一方で、日本文化も体験することが出来ました。例えば、歌舞伎を見に行ったり、寿司や刺身を食べたり、茶道にも参加しました。それにより日本文化のすばらしさがわかりました。もちろん、日本はアジアの国々の中で最も技術的にも経済的にも有名な国であります。私の母国ドミニカ共和国では、日本の商品（PC、TV、ラジオ、カメラ、車など）は高い品質であることで有名です。これらのことを見て、体験して、2006年4月に再び留学生として日本に来ました。

私は子供の頃から「日本で博士号を取得すること」が夢でしたので、日本に留学生として行きたいと強く願っていました。日本に来る前に、福岡のことをインターネットで調べ、福岡の気候が良いことや国際空港がある便利な町であること、過ごしやすいこと、外国人が多いことなどがわかりしました。

福岡には様々な国の人たちが住んでおり、色んな国の人と交流することにより、たくさんの友達を作ることが出来ました。私にとって“福岡の良さ”の中で一番大事なことは「世界的に有名な大学がある」ことだと思います。九州大学はイギリスやアメリカ合衆国、中国にオフィスがあります。そして、九州大学にはトップレベルの先生方がいらっしゃいます。それにより、世界レベルで先進的、プロフェショナルな教育が行われています。九州大学には世界から留学生が来ています。現在は約2,000人（平成22年11月）の留学生が様々な国から来ており、全国で5番目（平成22年5月：日本学生支援機構データより）に留学生が多い大学です。それにより、様々な国の人たちと触れ合うことができ、色んな国々の文化や習慣、食べ物などを体験しています。

九州大学には留学生会というものがあり、2008年度の留学生会長をさせて頂きました。留学生会長として太宰府天満宮や西日本国際財団の方々、九大会の方々、福岡市、福岡県の方々などと触れ合うことが出来ました。その経験は、私の人生にとって大変素晴らしい経験となりました。留学生会長の仕事をすることによって、日本社会でのマナーなどがわかり、とても貴重な経験となりました。

九州大学には有名な農学部の部門があり、世界的な農業問題、あるいは農業や農村発展について研究を行っており、貴重な役割を果たしています。私は現在、農業経営学研究室で南石先生、堀田先生、竹内先生のもとで「中央アメリカ自由貿易協定（DR-CAFTA）下におけるドミニカ共和国の農業経営戦略」に関する勉強をしています。先生方は忙しい中貴重な時間を割いて、いつも研究の相談にのってくれます。また、毎週火曜日には研究室でLunch on（昼食会）があり、先生方と学部3年生、4年生そして大学院生みんなでお弁当を食べながら色んなテーマについて話しています。その後、学部生と大学院生に分かれてゼミを行っています。ゼミで私達は自分の研究テーマの進行状況について発表し、先生方からの貴重なアドバイスをいただき、仲間と意見交換を行い、とても大事な時間となっています。また大学には、自分の研究テーマに役立つ情報がたくさんあり、それらをうまく活用し、勉強に励んでいます。

大学卒業後はドミニカ共和国へ帰国し、日本で得た知識や技術を活かして研究を行い、自国の農業と農村の発展に貢献したいと思っています。

右側が筆者